

## 新型コロナウイルス感染ショックと反中国ゼノフォビア

MRonline(2020,3,30)に掲載された Globetrotter 論文 脇浜義明訳

3月25日、G7は声明を出せなかった。議長国米国が草案を書く立場であったが、その草案に他の幾つかの国が反対したからである。草案が「武漢ウイルス」という言葉を使い、グローバル・パンデミックの責任を中国にあると主張していたからである。それ以前にもトランプ大統領は「中国ウイルス」という言葉を使い（その後、彼はその言葉を使わないと言ったが）、大統領府スタッフの一人が「カンフー」をもじった「カンフル」という言葉を使った。フォックス・ニュースの司会者ジェシー・ワッターズは「何故このウイルスが発生したのか。それは中国に食用蝙蝠や蛇を売っている市場があるからである」と、レイシスト的発言をしたが、その原稿に対する事前の編集もなかった。トランプ周辺による中国中傷発言の結果、米国でアジア系に対する野蛮な攻撃が急増した<sup>1</sup>。

WHOのテドロス・アダノム・ゲブレイエソス事務局長が2月14日、欧米で大感染が始まるずっと前に、「中傷でなく連帯を」と呼びかけたが、それは正しい措置であった。彼は新型コロナウイルス災禍の責任を中国に擦り付け、それを中国叩きの武器に使う傾向を見抜いて、そう言ったのである。彼の「中傷ではなく連帯を」は、ウイルスへの偏狭なレイシスト的で非科学的な反応と国際主義的人間主義的科学的反応との境界を明確に示すものである。

### 発生源

このウイルスの正式名は **SARS-CoV-2** で、多くのウイルスと同じようには発展した一つまり動物から人間への伝染である。しかしどこで発生したかについては確実なコンセンサスはない。一つの説では、湖北省武漢にある野生食用動物が売られている華南海鮮卸売市場の西端が発生地とされる。要するに問題なのは、農業が森林や奥地へ侵入拡大して開発が進んだので、人間が新型コロナウイルスのような新しい病原体と接触する機会が大きくなったことである。開発から生じる危険は新型コロナウイルスだけではない。近過去を振り返っても、**H1N1**, **H5Nx**, **H5N2**, **H5N6** など豚インフルエンザや鳥インフルエンザが人間社会を襲った。**H5N2** は米国が発生源だが、誰も「米国ウイルス」と呼ばなかったし、米国を中傷する人もいなかった。新ウイルスが見つかる科学的名称が使われ、それが発生した国に責任を負わせたり、中傷するためにその国の名前を使ったりはしなかった。基本的に人間活動が自然林に侵入し、人間文明（農業と都市）と自然とのバランスが崩れたという問題意識で捉えた。

ウイルス命名は厄介である。1832年英領インドから欧州へ伝播したコレラは「アジア・コレラ」と呼ばれた。フランスは自分たちは民主主義国だから専制主義的なアジアの疫病に負けるわけがないと高を括ったが、そのためひどい目にあつた。コレラの出身地の問題ではなく、欧州と北米の衛生状態が問題であったのだ。（1848年に米国でコレラが

流行したときに公衆浴場運動<sup>2</sup>が生まれた)

「スペイン風邪」(Spanish Flu) という命名は、第一次世界大戦交戦国には報道管制があったが中立国スペインには報道管制がなく、スペイン・メディアがこの疫病をどんどん報道したことから、「スペイン」の名がついた。事実としては、その病気は米国から、米国のケンタッキー州の米軍基地でニワトリから兵士に伝染して始まったという証拠がある。米国から英領インドへ広まって多数の犠牲者が出た。しかし、「アメリカン・フル」という言葉はなかったし、インドから米国への非難や損害請求もなかった。

## 中国と新型コロナウイルス

黄朝林教授は医学雑誌『ランセット』で重要な論文を発表、その中で「(SAR-CoV-2 の)「最初の感染者が発生したのは2019年12月1日」と書いた。初めこのウィルスのごとはよく分からず、人から人へ感染するかどうか曖昧で、混乱だけが広がった。主として動物から人間へ伝染する既知のウィルスの一つではないかと思われていた。

湖北省新華病院の呼吸器救急医療部の張集賢部長は、新しいコロナウィルスによる肺炎流行の警鐘を鳴らした医師の一人であった。12月26日張医師は高熱と咳 — このウィルス感染の特徴 — に悩む老夫婦を診察。種々の検査の結果インフルエンザ A、インフルエンザ B、マイコプラズマ肺炎、クラミジア、アデノウィルス、SARS ではないことが分かった。夫婦の息子の CT スキャンで肺に影があるのを発見した。同じ日に同じような症状の患者 — 海鮮市場の販売員 — を診察した。彼女はこの4人の患者のことを武漢江漢区疫病予防管理センターに報告した。その後張医師とその仲間は同じ症状の患者3人を診察したが、この3人はみんな海鮮市場へ行ったことがあった。12月29日、湖北省疫病予防管理センターは張医師が診察した7人を調べるために専門家を派遣した。湖北省当局は張医師と彼女の同僚の努力を認め、権力で抑圧するようなことをしなかった。

他に二人の医師 — 李文亮 (武漢中央病院の眼科医) と艾芬 (アイ・フェン、同病院救急部長) — がこのウィルスの関する混乱の中、その正体を明らかにするのに貢献した。何が何だかよく分らない初期、二人はフェイクニュースを拡散したとして当局の官僚から叱責された。李医師は2月7日に新型コロナウイルス感染で死亡した。主要な医療機関と官庁 — 国家衛生保健委員会、湖北省健康委員会、中国医師協会、武漢市 — が遺族に弔意を表した。3月19日、武漢公安局は李医師への叱責が間違いであったことを認め、それを行った官僚を懲戒した。艾芬医師のフェイクニュース拡散で叱責されたが、2月には当局が謝罪し、後に武漢テレビジョン放送で祝福された。

12月29日時点では、湖北省当局も新ウィルスを認識していた。翌日、湖北省は疫病予防管理センターに報告し、中国政府は12月31日に WHO に報告した。武漢で症例が発覚してから1カ月後であった。1月3日にはウィルスの正体が突き止められ、その遺伝子配列を WHO に伝えた。現在世界で対抗ワクチン開発研究が出来ているのは中国が新型コロナウイルスの DNA を明らかにしたからである。現在43種のワクチン候補があり、そのうち4種が初期臨床実験に

入っている。

国家衛生健康委員会は、中国疫病予防管理センター、中国医学科学院、中国科学院から専門家を招集してチームを結成して、研究に入った。チームはウィルス・サンプルを用いていろいろ実験を行った。1月8日、病原体が新型コロナウイルスであることを確認した。最初の死者が1月11日に発生。1月14日、武漢市健康委員会は人から人への感染は確認していないと発表したが、それが生じないと確信をもって断言することはできないと付け加えた。一週後の1月20日、鍾南山医師が新ウィルスが人から人へ感染すると発表した。(鍾医師は中国共産党員で、著名な呼吸器学専門家で、かつて **SARS** 対策で指導的役割を果たした人物) 何人かの医療従事者が新ウィルスに感染した。この1月20日に習近平主席と李克強首相はウィルス警戒指令を全官庁に指令した。国家衛生健康委員会やその他の政府機関に緊急対策を講じることを命じた。

人から人への感染が確認されて3日後の1月23日、武漢は都市封鎖に入り、翌日湖北省は警戒レベル1を発令。1月25日、李首相が調整グループを結成。その2日後に武漢訪問。

未知の病原体に直面した中国は、こういうこと以外に何ができたのか、誰にも分からない。2月16~24日に中国を訪れたWHOチームは、中国人民と政府がウィルス拡散を止めるために全力を尽くしているという称賛する報告書を書いた。何千人もの医師と医療従事者が武漢に派遣された。感染者を収容する病院が二つ突貫工事で建設された。都市封鎖下の住民を支援するために様々な市民団体が活動した。中国が行ったのは、感染拡大を止めるために感染者を病院に収容し、感染者と接触した者を隔離することであった。この対象を絞ったやり方は感染経路を見つけ、その経路を断ち切ることであった。

## 中国と世界

インドのケララ州の K.K.シャイラジャ健康相は武漢のことをよく調べ、人口3500万人のケララ州に非常事態対策を取った。彼女は行動が早かった。中国から学び、すぐに実行したのである。おかげでケララ州ではウィルス拡散を抑えることができた。

米国はこの病原体に関する情報を早くから得ていた。1月1日に中国の疫病予防管理センターから米国の疫病予防管理センターのロバート・レッドフィールド所長に電話があったのだ。所長は「話を聞いて大慌てした」とニューヨークタイムズが書いている。中国のセンター長の高福博士はレッドフィールドと会話しているとき、「号泣した」と言われる。しかし、米国はこのせつかくの警告を真剣に捉えなかった。1カ月後の1月30日、トランプ大統領は無頓着な態度を表明した。「米国ではうまく収まるだろう。心配は要らない」と言った。しかし、3月13日に大統領は非常事態宣言をしなければならなかった。米国中にウィルスが拡散していたからだ。

無頓着な政治的指導者は他にもいた。1832年フランスは「アジアコレラ」には感染しないと断言した政治家のような人々がいた。そもそも**アジアコレラ**が問題ではなく、悪い衛生状態でコレラ菌に感染することが問題なのだ。同じように「中国コレラ」なんか存在しない。存在するのは **SARS-CoV-2** だ。中国人民はこのウィルスと闘う方法を、手痛い試

行錯誤を経て、世界に示した。我々はその貴重な経験から学ぶべきであろう。WHO が言ったように「検査、検査、検査」を行い、それに基づいて慎重に封鎖、分離、隔離などの調整を行うことだ。ウィルスとの闘いで専門的知識と技能を得た中国人医師たちは、今やイランやイタリアで活動、国際主義と国際協力の精神を発揮している。

3月4日、WHO チームを率いて中国入りしたブルース・エイルワード博士は、ニューヨークタイムズのインタビューに応じて、「中国の人々は戦時中のように総動員体制だ。彼らを駆り立てているのはウィルスへの恐怖だ。彼らは中国、そして世界を新型コロナウイルスから守る闘いの最前線にいる」と語った。

---

#### 訳注

1 これは新型コロナウイルス感染ショックへの反応というより、もともと米国に尊座していたアジア蔑視が顕在化したもの。

2 貧民や労働者を清潔にさせ、彼らの道徳観と市民性を向上させる運動。